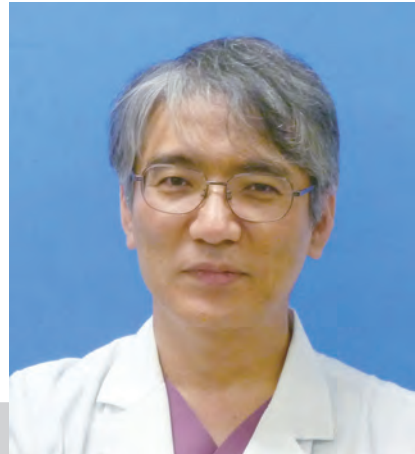


沖縄の循環器患者さん
のために頑張りたいと
思います



循環器科会 会長
砂川 長彦 先生

質問 1. 循環器科会会長に就任されてからこれまでを振り返ってみてどのような感想をお持ちでしょうか。

私に前循環器科会長の安里浩亮先生から循環器科会の業務を引き継いで欲しいとお話があったのは平成 26 年 9 月頃でした。この循環器科会の設立経緯や歴史について私は詳しくは知りませんでしたが、その頃には沖縄ハートを循環器科会の定例会として共催することで沖縄県医師会からの分科会助成金を沖縄ハートの予算として使用できるようになっていました。

沖縄ハートは沖縄で最も歴史のある循環器領域の研究会ですが、元琉球大学医学部教授鈴木信先生がせっかくの発表や議論を雑誌にして記録を残せないかと考えて、沖縄ハートジャーナルを発刊したと関係します。その編集長の安里先生が循環器科会会長を併任していたため循環器科会の助成金を印刷費として使えるようにしていただいたとお聞きしています。私が循環器科会会長とジャーナルの編集長を引き継ぐこととなりましたが、その後沖縄ハートの体制や共催が変わり、現在、沖縄ハートジャーナル

については琉球大学医学部第二外科に編集業務を行っていただいています。

沖縄ハートでの定例会は循環器領域の内科、外科、小児科が集まって活発な議論をする他にはないユニークな会であり、これまでの沖縄の循環器の発展に大変寄与してきたと思います。その沖縄ハートを循環器科会の定例会とさせていただいていることと雑誌の発刊業務を助成することが循環器科会のためになると考えて継続させて頂いています。

質問 2. 循環器科会における最近の話題などをお聞かせ頂ければとおもいます。また今後の展望、課題などについてどのようにお考えでしょうか。

循環器科会は沖縄県医師会の分科会ですが、最近、沖縄県医師会医学会への循環器内科の発表が少なくなっていました。それは日本心血管インターベンション治療学会 (CVIT) 等の専門医・認定医制度で循環器関連学会への発表が業績として必要となり、そのため日本循環器学会や CVIT 地方会への発表が優先されるこ

とが関連すると考えています。ただし循環器科会員にとっては単なる勉強の場だけでなく、交流の場としても沖縄ハートや県医師会医学会は必要だと思いますし、特に沖縄の若い循環器医師や循環器を目指す研修医が遠慮せずに発表できて、中央の学会発表前に皆で忌憚のない意見や助言をしながら暖かく育てていけるような場を提供できたらと考えています。

質問 3. 勉強会・講演会等を活発に開催されておりますが、会の運営にあたってご苦労があればお聞かせ下さい。また会の構成、会員数を教えて頂けますでしょうか。

循環器科会は約 70 人の循環器内科を標榜している会員からなりますが、これまで会員だけが集まる会はありませんでした。沖縄ハートを循環器科会の定例会とさせて頂いていることから、表面上は活発に開催されているようにみえますが、単独での開催ではありません。

私も就任してようやく 3 年目ですが、これまでは前会長から引き継いだ書類処理や報告書作成、助成金の手配だけしか行っておらず、そろそろ今後の会の運営に関しては、方向性をもって考えたいと思います。今後、県内の循環器内科でご活躍されている先生方と連携を取りながら相談していこうと思っています。

質問 4. 県医師会に対するご要望等がございましたらお聞かせ下さい。

医療費抑制政策で医療環境は厳しくなっていますが、開業されている先生方も以前は病院での勤務されていたことがほとんどだと思います。特に循環器内科は緊急での対応が多く、開業医と勤務医の連携が大切だと思います。勤務医の過重労働や超勤問題も含めてご配慮頂けたらありがたいと思います。

質問 5. 大変ご多忙の身であります、日頃の健康法、ご趣味、座右の銘等がございましたらお聞かせください。

私は医者の不養生で、定期的な運動をしておらず、時々水泳やスケートで汗を流すくらいです。趣味はギター、バイク、スケートと学生時代から好きで続けているものです。

クラシックギターは那覇高校ギタークラブで厳しく鍛えられました。また元々機械いじりが好きで、大学時代にはバイクを先輩から譲ってもらい自分で整備して乗っていました。その時に初めて後部座席に乗せた女性が妻です。結婚後は一時封印していましたが、10 年前に大型二輪免許を取って再度乗り始めました。ときどき休日の早朝に北部を走っています。アイススケートも大学時代にスケート場でバイトをしていて鍛えられました。

この度はお忙しい中、ご回答頂きまして、誠に有難うございました。

インタビューアー：広報委員 間仁田 守